

河北新報

12月30日(金)

河北新報社

仙台市青葉区五橋1-2-28
(郵便番号 980-8660)

「東は、未来」



電話 (022) 211
読者相談室 1447
報道部1127 販売部1304
スポーツ部1130 営業部1318
夕刊編集部1146 営業管理部1312
生活文化部1132 事業部1332
総合案内 (022) 211-1111

ご購入申し込みは
0120-09-3746

小者な痕の文化を守る

東松島市の宮戸島の室浜漁港に、漁業者の作業小屋「番屋」が来
年1月上旬に完成する。建設に奔走したのは、山形県最上町の旅行
代理店社長山口スナエさん(51)。「行政支援の行き届かない地
域を守りたい」と持ち前の明るさで浜の復興を後押ししている。

番屋は木造平屋で広さ24

平方メートル。宮城県漁協宮戸支

所が無償で提供を受ける。

出資者は食品メーカー「ハ

イツ日本」(東京)で、

山口さんが仲介した。

室浜漁港では29日、棟上

げの儀式「建前(かみ)

地元住民ら約40人が集まっ

た。山口さんと漁協幹部の

が屋根に上り、餅をまいて

地域の繁栄を祈願した。

同支所の小野喜夫運営委

員長は「冬場に漁港のそば

で風をしのげる場所がな

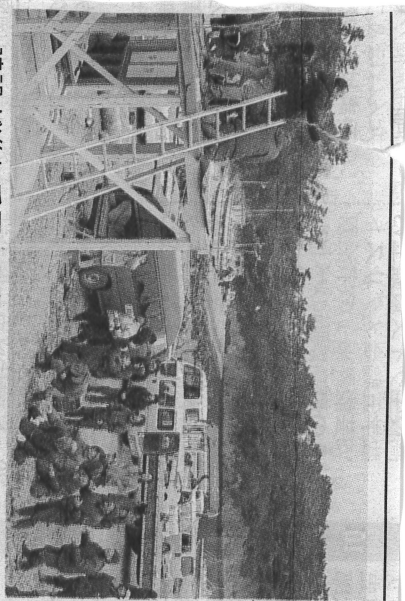
かった。水産業の再生や高

台移転などを話し合う場所

としても活用したい」と感

謝する。

山口さんが宮戸島で支援



建設が進む番屋の屋根から餅をまき、地域の繁栄を祈願する山口さん(左)ら。29日、東松島市宮戸の室浜漁港

東松島

宮戸島に番屋建設 米出身、山形の会社社長奔走

を始めたのは、こと7月。
島の住民が自ら復興計画を
作成していることを知り、
「ぜひ応援したい」と駆け
付けた。
経営する旅行代理店のノ
ウハウを生かし、全国から
ボランティアを募った。11
月末までに約80人が島
を訪れ、がれき撤去や島特
産のりの養殖網くしを
手伝った。
地元のに養殖業尾形
文秀さん(56)は「最初は不
安もあったが、みんな熱心
で作業がどんどん進んだ。
宮戸島のいのづな(イナ)を
透切れさせ出す出荷できた
と、連日収穫作業に汗を流
す。

山口さんは来年3月、津

波で流された島唯一の居酒屋

屋を復活させる計画も進め

る。宮城県南三陸町の戸倉

地区では、各浜への番屋の

建設支援を予定する。

米国生まれで、結婚を機

に山形で暮らし始めた山口

さんが流ちょうな山形弁で

力説する。「三陸の小ざな

浜の一つに、先祖から

受け継いできた大切な文化

がある。行政の支援が届か

ず、みんな困っている。ん

だから、その人たちが志を

援けたいんだ」